

定 価 1部140円(本体133円+共200円)
 予約購読料 1年分 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140-9-145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 **日本基督教団**
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
 FAX03(3207)3918
 発行人 内藤留幸
 編集主筆 竹澤知代志
 印刷所 株式会社きかんし

東日本大震災 諸教会の被害状況は

石橋議長ら奥羽・東北を訪問

地震発生の翌12日、総幹事のもとに設置された「救済対策委員会」は、直ちに被災地に調査員4名(石橋秀雄教団議長、藤盛勇紀幹事、加藤誠幹事、森田恭一郎社会委員)を派遣することを決定した。主な目的は、教団として被災教会を問安、安否・被害について情報を収集し、備かでも救済物資を運び、可能ならば奥羽、東北の教区議長と対応を協議することである。翌日曜日早朝の出発と決まった。

13日(日)早朝、車2台でそれぞれ埼玉、東京を出発。すでに深刻な事態となっていた福島第一原発を避け、日本海側から仙台に入ることにした。まずは新潟の十日町教会を目指す。新潟中越沖地震の際に救援活動の拠点の一つとなった十

日町教会で主日礼拝を守り、新井純牧師と懇談して、アドバイスをもらった。市内のスーパーで救援物資を購入し、急ぎ被災地に向かう。新潟、山形、経由で仙台に入り、仙台東八番丁教会東北教区議長高橋和人(牧師)に到着した時は夜10時を回っていた。水道、電気ともに遮断されたままだが、旅行中に地震に遭った青年らが避難所を経てここに逃れていた。

その夜、高橋和人教区議長と共に東北教区センターへ移動。教区宣教委委員長の片岡舘也牧師らと情報交換する。この東北教区センターは、仙台市内では珍しく電気・水道とも通じている。安心して水が飲め、トイレも使えるのはありがたい。

14日(月)、朝食代わりのバナナをほおぼり、高橋教区議長も同乗して仙台北教会(小西望牧師)へ向かう。仙台市内を走っていてよく見かけるのは、様々な行列だ。まず、ガソリンを求めて道路の端に並ぶ自動車の列。次に、スーパーなどの商店に並ぶ人の列。そして、水道の出る地域の公園では水汲みの行列。どの列にも共通しているのは、整然とした静けさだ。

フットワークが良い石橋議長、しかし足取り重く、石巻市内

沿路地方に向かい、途中、田尻教会、涌谷教会を訪ねる。田尻教会(小久保達之佑牧師)は、新しい会堂と牧師館で、とくに被害はない。涌谷教会(飯岡洋介伝道師)では、保育園の職員、

関係者の多数が被災、行方不明者があるとのこと。この涌谷辺りから携帯電話がつかなくなった。「圏外」だ。私たちは車で移動しているからよいが、移動手段を持たない人の不安はいかばかりだろう。

さらに海の方を目指す。まだかなり内陸のはずだが、ふと気づくと、道がうっすらと土埃をかぶって白っぽい。ここまで津波による海水で覆われたのだ。改めて「被災地」を意識し、にわかに緊張感が高まる。

石巻市街に入り、住宅街の路地を抜けようとする時、行く手を阻まれた。海水で道路が冠水している。一つの白い建物が水に囲まれている。見ると、「・キリスト教会」と記された看板が落ちていた。他教派の教会だった。

(2面に続く)

被災直後、大船渡市内の信じがたい光景を目にする

東日本大震災 戦後最大の日本の危機に立ち向かって 被災地域の教会と共に…命に仕える…

さらに地震による津波は太平洋側の奥羽、東北、関東500キロにわたって、沿岸地域の町や村を襲い、多くの尊い人命と家屋を呑み込みました。地震発生から10日たっても、その被害状況の全貌は把握しえない状況にあります。

3月22日現在で、8千名余の死亡が確認され、さらに1万2千名余りの安否不明者、そして、35万名に近い人々が過酷な避難生活を強いられています。道路も寸断され、通信手段が切断されて、孤立した地域があり、ガソリン、軽油、灯油等が極端に不足しています。援助物資が被災地域に届けられず、水や食糧が不足し、真冬の寒さに震えて、命を奪われようとしています。今なお医師不足、薬の不足などで、命が脅かされ続けています。まことに、想像を絶する惨状に心が痛み、主の助けを祈らされています。

被災地域の教会の牧師たちは通信網の切断、極端なガソリン不足等で移動手段が限定されるなかで、信徒、付属施設の職員、園児等の安否の確認、被害状況の把握など、必死な活動を続けておりま

す。さらに二次災害として、福島第一原子力発電所で1号機から4号機までが壊滅的打撃を受け周辺地域の被災された方々をほしめ、多くの方々を一層の苦しみと不安に追い込んでいます。原子炉が爆発し、放射性物質が大気に放出されないよう、世界の人々が注視していますが、ことに福島第一原子力発電所の周辺にお住まいの方々の安全を願っています。

巨大地震と津波がもたらした危機、原子力発電所事故による放射性物質汚染の危機、戦後最大の危機の中に命が脅かされています。

教団では、大震災救援対策委員会を設置し、ただちに被災地域の教会の問安と被害状況出来るだけつまひらかに知るため、教団議長、2人の幹事、社会委員の4名を仙台に派遣(13日、16日)、宮城、岩手の被災地域の教会問安と被害状況の把握に努めました。

また、地震直後から教団事務局の幹事、職員と共に議長が泊まり込んで情報の収集に懸命に努めました。

15日には岩手の一関教会にて奥羽教区議長、東北教区議長と共に、奥羽教区内、東北教区内の被災地域の教会の被災状況の確認と今後の対策を協議しました。

この時、被災地域の愛する家族を失い絶望の中にある方々、愛する者の安否を懸命に求めておられる方々、津波によって家を失って途方にくれておられる方々、原発の事故で不安の中にある方々、要条件下で避難所生活をされている方々のために、主の慰めと助けがあるよう、教団内のすべての教会の祈りを深めましよう。

2011年3月23日
 日本基督教団総会議長
 石橋秀雄

「わたしたちの助けは、天を造られた主の御名にある」
 (詩篇124編8節)

被災された方々とその関係者の方々に心からお見舞い申し上げます。

3月11日午後2時46分、巨大地震が東日本を襲いました。世界の観測史上4番目に大きいマグニチュード9.0を記録し、甚大な被害をもたらしました。その地震のエネルギーは関東大震災の45倍、阪神・淡路大震災の1,450倍とのことでした。

3月22日現在で、8千名余の死亡が確認され、さらに1万2千名余りの安否不明者、そして、35万名に近い人々が過酷な避難生活を強いられています。道路も寸断され、通信手段が切断されて、孤立した地域があり、ガソリン、軽油、灯油等が極端に不足しています。援助物資が被災地域に届けられず、水や食糧が不足し、真冬の寒さに震えて、命を奪われようとしています。今なお医師不足、薬の不足などで、命が脅かされ続けています。まことに、想像を絶する惨状に心が痛み、主の助けを祈らされています。

被災地域の教会の牧師たちは通信網の切断、極端なガソリン不足等で移動手段が限定されるなかで、信徒、付属施設の職員、園児等の安否の確認、被害状況の把握など、必死な活動を続けておりま

地震、津波、諸教会の被害状況は 爆撃後の街さながらの壊滅状態

さらに石巻市街を海岸方面へ進む。自衛隊や警察、消防の車の往来が目立ち、ついに一般車の進入が規制された。規制区域の外に車を駐め、歩いて石巻栄光教会へ向かう。

越える、いきなり、あり得ない光景が目に見え、おびただしい瓦礫の山、折れ重なり、電柱に引っかかり、家に突っ込んでいた。破壊された建物。爆撃後の街さながらの壊滅状態。

規制区域内でも、もちろん緊急車両は走っている。一般の車も少なくない。道路には大勢の人も歩いてる。なのに、何か静かだ。しばらくして気づいたが、人を避けながら走るとの車も、決してクラクションを鳴らさないのだ。他の被災地でも車の通れる所はどこでも車が走っているが、どこでもクラクションを鳴らすのを聞いたことがない。

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める(後日、地震から9日後の20日、地震の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された)。

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める(後日、地震から9日後の20日、地震の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された)。

石巻市街を一望できる高台で、石巻山城町教会の鈴木淳一牧師、妻善姫牧師夫妻に偶然出会う

多くの人がどこへ向かうともなく、荷物を抱えながら、黙々と歩いている。時々、悲鳴とも歓声ともつかない声がかかる。無事と云えるのか、とにかく生き延びて再会したのだ。

石巻栄光教会(小鮎實牧師)は、土台が若干高いのか、辛うじて海水は床の上まで襲わなかった。幼稚園舎は避難者のために開放されていた。救援物資は車に残してきたので、たまたま教会堂の脇にあった台車を借りて、物資を取りに車まで戻る。道路は、海から運ばれたと思われる泥で薄く覆われている所が多い。荷物を積み上げた台車を押すのはやっかいだが、時々、強い視線を感じる。突然と座り込む人、自転車に境界まで荷物を積んで運ぶ人。しかし皆、静かだ。

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める(後日、地震から9日後の20日、地震の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された)。

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める(後日、地震から9日後の20日、地震の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された)。

地震と津波 なぜ、なぜ

教会被災状況、奥羽教区

被災地を訪ねて、やっと見つけることができた方から、「なぜ、どうして」という声の前には黙して置るのみです。聞こえてくる声の中には、「遅い」と。まさに遅いです。でも、この大震災は、もちろん、東

援し、教会は役員が、溜まっていた泥をスコップでかき出し、洗い流す作業をしていた。何もなくなったという声に、言葉を失う。牧師に救助された方は、本当に感謝していた。

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める(後日、地震から9日後の20日、地震の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された)。

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める(後日、地震から9日後の20日、地震の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された)。

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める(後日、地震から9日後の20日、地震の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された)。

邑原宗男

被災地を訪ねて、やっと見つけることができた方から、「なぜ、どうして」という声の前には黙して置るのみです。聞こえてくる声の中には、「遅い」と。まさに遅いです。でも、この大震災は、もちろん、東

援し、教会は役員が、溜まっていた泥をスコップでかき出し、洗い流す作業をしていた。何もなくなったという声に、言葉を失う。牧師に救助された方は、本当に感謝していた。

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める(後日、地震から9日後の20日、地震の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された)。

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める(後日、地震から9日後の20日、地震の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された)。

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める(後日、地震から9日後の20日、地震の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された)。

新生釜石教会の礼拝堂の惨憺たる様子、説教壇が

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める(後日、地震から9日後の20日、地震の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された)。

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める(後日、地震から9日後の20日、地震の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された)。

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める(後日、地震から9日後の20日、地震の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された)。

一度、石巻栄光教会に戻ると、初めて見る石巻なのに「変わり果てた街」だと分かる。津波に襲め尽くされ、所々煙も立ち上っている。捜索だろうか、ヘリコプターが昇降している。この壊滅した街の、しかしどこかに生存者がいるに違いないと思いつつ、ただ眺める(後日、地震から9日後の20日、地震の祖母と16歳の孫が、ここからわずか数百メートルの所で救出された)。

瓦礫の間に潜り捜索・救出活動する海外のレスキュー隊

